

キャラクター名 雪之丞 孔人(ゆきのじょう あなと)	プレイヤー名
-------------------------------	--------

シンドローム	サラマンダー キュマイラ	ワークス	高校生	カヴァー	
オプション		年齢	16	性別	男
覚醒	感染	衝動	嫌悪	初期侵食率	29%
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	1	0			6	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
12dx@8+2 凍結世界-オメガズ-	RC	12r+2		19		CR+3キ+魔獣+(加護+獣化+ストレンジ) (8)
13dx@8+2 60% 凍結世界-オメガズ-	RC	13r+2		19		CR+3キ+魔獣+(加護+獣化+ストレンジ) (8)
14dx@8+2 80% 凍結世界-オメガズ-	RC	14r+2		19		CR+3キ+魔獣+(加護+獣化+ストレンジ) (8)
16dx@7+2 100% 凍結世界-オメガズ-	RC	16r+2		24		CR+3キ+魔獣+(加護+獣化+ストレンジ) (8)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネUGN幹部	
コネ:噂好きの友人	

合計装甲:	0	合計回避:	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
変異種:サラマンダー	P	N		
竹内ユウスケ	P	友情	N	疎外感
根杉あんこ	P	友情	N	疎外感
斑鳩 破滅(さーせん)	P	信頼	N	食傷
ロックストン・アムストロング	P	尊敬	N	劣等感
朽葉 啄斗(シャイ)	P	親近感	N	恐怖
ブラッドコートピア	P	執着	N	脅威

最大財産P:	4	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR:サラマンダー	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-LV							
コキュートス	3	4	Xジャー	視界	シ-ン(選択)	対決	Dロイス	
効果:	攻+[LVx3]で攻撃。ダイス-2個。3回/シリア							
氷の加護	5	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	Sm組み合わせたメウ中の攻+[LVx2]							
先陣の火	3	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果:	ラット中の【行動値】+[LVx5]							
プラズマカノン	3	4	Xジャー	視界	単体	対決	100%	
効果:	攻+[LVx5]の射撃攻撃							
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	【肉体】判定ダイス+[LV+2]個							
魔獣の本能	1	2	Xジャー/リア	-	-	-	-	
効果:	【肉体】で判定できる							
凍結保存	★							
効果:								
不燃体	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ある日、俺は能力に目覚めた。
 きっかけは特別なものじゃない、普通過ぎて逆に不気味なくらいだ。
 事故に巻き込まれたわけでも、化物に襲われたわけでも、ましてや、大切な人を守ろうとしたわけでもない。
 ただいつも通りの朝を迎えただけ。……ただそれだけのはずだった。

目を覚ますと、部屋が隔々まで水に覆われていた。
 凍り付いたドアを壊し部屋を出ると、凍結は廊下を伝い、階段の下へと続いていた。
 嫌な予感が出て1階へ降りると、両親の寝室で、父さんと母さんが凍っていた。
 なんだこれ…？ どうして父さんと母さんが…？
 一体誰がこんなことを…？
 というか、なんで俺は凍ってないんだ…？
 そんなことよりも救急車を…いや、これ救急車でどうにかできるのか…？
 わけがわからずに放心していると、UGNと名乗る人々が家に訪ねてきた。
 彼らは迅速な動きで父さんと母さんを救出し蘇生措置を施した。
 2人が目覚める頃には、家も元通りにしてくれた。
 UGNの活躍によってこの一件が騒ぎになることはなかったが、父さんと母さんの手には軽い凍傷が残った。

後日、UGNに呼び出され説明を受けた。
 彼らが言うには、俺は能力者(オーヴァード)であり、その中でも普通とは違う特別な力を持っているという。
 今回の一件は、能力の覚醒に伴い力が暴走してしまった結果だろうとのことだった。
 正直言って、彼らの言っていることは何一つ頭に入らなかった。
 あの悪夢のような光景が、自らの手によって作り出されたという事実で、俺の心は埋め尽くされていた。